

## 最新の業界事情

### スポーツマネジメントへの関心が上昇!

ヨーロッパのサッカーやアメリカのメジャーリーグをはじめ、トップクラスのプロスポーツのマーケットは巨大。そのため、欧米ではスポーツを経営の視点でとらえる考え方が浸透しているが、日本でも、企業スポーツが衰退し、野球の独立リーグやバスケットのbjリーグが登場するなどプロ化が進む流れを受けて、スポーツビジネス、スポーツマネジメントへの関心が上昇。大学でもこれらの分野に特化した学部・学科を設ける例が増えている。また、トレーニング方法や選手の身体のケアに関する科学的アプローチも年々進化しており、スポーツトレーナーなどアスリートを支える専門家の役割は重要度を増している。

### スポーツ用品メーカーや販売店の仕事

シューズ、ユニフォーム、ボール、ラケット、グローブなどのスポーツ用品にかかわる職種もスポーツ好きにとっては魅力的。選手としての経験や専門知識が生かせる仕事も多い。



#### スポーツ用品開発

競技用のシューズ、ウェアなどを開発する仕事。素材や形状を研究する研究職のほか、パタンナーなどの職種がある。



#### メーカー営業

販売店への営業のほか、自社製品を使ってもらうための、チームや選手への営業も大事な仕事。用具面で選手をサポートする。



#### ショップ販売員

スポーツ用品を専門に扱うショップの販売員。初心者から競技のベテランまで幅広い層の顧客に対応する専門知識が必要。

### スポーツマスコミの仕事

スポーツマスコミには、テレビ局のスポーツ番組、新聞(一般紙)のスポーツ欄、スポーツ新聞・雑誌・Webサイトなどがあり、それぞれで記者やカメラマンが活躍している。



#### スポーツアナウンサー

テレビやラジオのスポーツ実況中継番組のアナウンサー。担当する競技に関する専門知識も必要で、特定の競技のエキスパートになっているアナウンサーも多い。局アナのほか、フリーで活躍するアナウンサーも。



#### スポーツ番組制作スタッフ

ほかのテレビ番組同様、スポーツ番組の制作には、ディレクターやAD、カメラマンなど多数のスタッフが関わっている。テレビ局社員が担当する場合もあれば、番組制作プロダクションが制作を請け負う場合もある。



#### スポーツカメラマン

試合中の決定的瞬間をスチールカメラで撮影する仕事。新聞社などに所属しているケースと、フリーで活動するケースとがある。動きの中で大事な一瞬を確実にとらえなければならぬため、高度な撮影技術を要する。



#### スポーツ記者・ライター

試合のルポや選手へのインタビュー記事を執筆する仕事。新聞社・通信社・雑誌社の正社員・契約社員の場合もあれば、フリーで活躍している人も多い。ライターとして売れっ子になれば著書を出すチャンスも。

## 大好きなスポーツにかかわる仕事はこんなにたくさんある!

部活動などを通じて、今、スポーツに夢中になっている高校生は多いはず。「将来は何かスポーツにかかわる仕事をしたい!」と考えている高校生もたくさんいるだろう。もちろんスポーツ選手として活躍する道もあるが、それ以外にもかかわり方や職種はバリエーション豊かに広がっているのだ。

### スポーツチームにかかわる仕事

スポーツ選手が所属するチームは、大きく分類すると、NPB(プロ野球)、Jリーグなどのプロ、実業団、大学・高校などの学校に分けられる。このうちプロの場合は、スポンサー収入、試合のチケット売上げや放映権料、関連グッズ売上げなどが重要な収入源。そのため、経営陣(フロント)、営業、広報など、「ビジネス」面を担当する人たちの役割も非常に大きい。

#### 監督・コーチ

チーム全体の強化方針を定め、試合で指揮を執るのが監督。個々の選手に対して技術的な指導をするのがコーチ。競技によっては両方の役割を兼ねている監督・コーチもいる。多くの場合はその競技の経験者(例外もある)。チームに所属するが、有期契約の場合が多い。



#### スポーツトレーナー

選手のトレーニング計画の立案、トレーニングのサポート、身体のケアなどを行うスペシャリスト。日本体育協会公認アスレティックトレーナーなど複数の民間資格がある。チームに所属するほか、複数チームと契約する、特定の選手専属のパーソナルトレーナーになるなど働き方は様々。



#### スポーツ選手

高校、大学を出たあともスポーツ選手としての活躍を目指すなら、プロチームか実業団チームに所属するのが王道。また、競輪、競艇などの場合は、競輪学校、競艇学校などを卒業後に個人で選手登録する。選手として活躍できる期間は限られており、引退後は指導者などを目指すケースが多い。



#### 審判(レフェリー)

試合の際、ルールに基づき反則のチェック、アウト・セーフの判定などを行う。競技ごとに資格がある。審判だけで生活できるのはNPBやJリーグの一部の審判、レフェリーに限られ、ほかには体育教師などの兼業が多い。



#### 代理人

選手の委任を受けてチームと契約交渉する仕事。欧米では花形職業だが、国内でもNPBなど高年俸の選手がいるリーグでは、代理人が認められるようになっている。NPBの場合は、弁護士資格が必須条件。



ホチキスを外して、教室に掲示してください!

## 仕事ができる業界図鑑 スポーツ業界

取材・文/伊藤敬太郎 撮影/徳田貴久 イラスト/藤井昌子

### スポーツ業界の職種&業種相関図

アスリートをサポートする仕事、スポーツ用品作りに関係する仕事、スポーツマスコミ…スポーツに関係する様々な仕事とその中身をまとめて解説!

#### 一般を対象としたスポーツの仕事



#### 体育教師

スポーツ関連の仕事の中でも高校生に最も身近なのが体育教師。体育系大学や教育学部の体育科などで所定の単位を修得すれば中学校・高等学校教員免許(保健体育・保健)が取得できる。



#### フィットネストレーナー

一般の人を対象としたフィットネスクラブなどでトレーニングに関するアドバイスをする仕事。身体、スポーツ、トレーニング、食生活などに関する広範な専門知識が求められる。民間の認定資格が複数ある。

#### スポーツインストラクター

フィットネスクラブやスポーツスクールなどで、子どもたちや一般の人たちにスポーツの指導をする仕事。資格は必須とは限らないが、種目ごとに様々なインストラクター資格が設けられている。



#### 体のケアやリハビリにかかわる仕事



#### 栄養士

スポーツに必要なパワー、エネルギーを養うための食事・栄養補給に関して提案やアドバイスをする仕事。最近はスポーツ栄養学を専門とする栄養士も増えている。栄養士、管理栄養士といった資格がある。



#### 理学療法士

ケガをしたスポーツ選手のリハビリの際に大きな役割を果たすのが理学療法士。回復度合いに合わせたトレーニングを提案・サポートする。スポーツトレーナーとして活躍する理学療法士もいる。

#### 柔道整復師など

スポーツ選手の疲労回復のためのマッサージや各種施術を行う専門家は柔道整復師、鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師、整体師、カイロプラクターなどがある。スポーツマッサージに特化したプロも増えている。

